

「心が生きる教育のための国際拠点」グローバル COE ワークショップ  
「民意のリテラシー:「世論」民主主義と「輿論」の可能性」  
(ユニットC主催ワークショップ)

- 日 時 : 2008 年 12 月 5 日 (金) 15:00~18:00
- 場 所 : 京都大学教育学部本館 1 階会議室
- プログラム
  - 15:00-15:30 「輿論と世論のメディア・リテラシー」(佐藤卓己)
  - 15:30-16:00 「輿論と世論は測定可能か?」(稲葉哲郎)
  - 16:00-16:30 「世論調査病を超えて」(柿崎明二)
  - 休 憩
  - 16:50-17:20 パネル討議
  - 17:20-18:00 フロアー討議&総括
- 企 画 : 佐藤卓己 (京都大学大学院教育学研究科准教授)
- 報告者 : 稲葉哲郎 (一橋大学大学院社会学研究科准教授)  
柿崎明二 (共同通信社政治部次長兼編集委員)
- ★参加 : 入場無料ですが、申し込みは 12 月 4 日までに佐藤卓己  
(tsato@educ.kyoto-u.ac.jp) 宛、メールでお願いします。  
なお、終了後、有志は懇親会も予定しております。

【概要】

「選挙年」2008 年はアメリカにおける大統領選のオバマ勝利、日本における総選挙臨戦態勢のなかで暮れようとしています。アメリカ大統領選挙においても、クリントン vs. オバマの民主党候補者選びの段階から連日のように世論調査が報じられてきました。また、支持率の低迷した福田内閣の突如の退陣、それを受けた麻生内閣の支持率伸び悩みの中、日本でもメディアの世論調査はますます政治的影響力を強めているように感じられます。

こうした世論調査の“世論”とは、そもそもセロンなのか、ヨロンなのか? この WS を企画した佐藤は、戦後曖昧になった“公的な意見=輿論”と“世間の空気=世論”の区別を改めて再構築することで、民意の読み書き能力を高める必要性を近著『輿論と世論—日本的民意の系譜学』(新潮選書)において主張しています。この「輿論/世論」の峻別による熟議民主主義の可能性について議論を深めるべく、社会心理学と報道現場の視点で二つの報告を踏まえたワークショップを企画しました。

稲葉報告では、メディア時代の選挙キャンペーンを分析してきた立場から、最新の事例を踏まえて「輿論/世論」を峻別する調査の可能性を検討します。続く、柿崎報告は我国の総裁選や総選挙における世論調査の影響に鋭く切り込んだ『「次の首相」はこうして決まる』(講談社現代新書)を踏まえて、現在の流動的な政局と「輿論/世論」報道のあり方を論じます。

その上で、パネル討議を行い、「民意の読み方」とは何か、「輿論の書き方」とは何か、など参加者の皆様とともに考えてゆきたいと思います。

**【関連資料】**

- ① 佐藤卓己『輿論と世論：日本的民意の系譜学』（新潮選書：2008年）、
- ② 柿崎明二『「次の首相」はこうして決まる』（講談社現代新書：2008年）
- ③ 稲葉哲郎「メディア政治時代の選挙キャンペーン(1997)」Inaba Lab.  
<http://inabalab.soc.hit-u.ac.jp/>

★ 照会先: 京都大学大学院教育学研究科 准教授 佐藤卓己 (tsato@educ.kyoto-u.ac.jp)